

# SCHEDULE

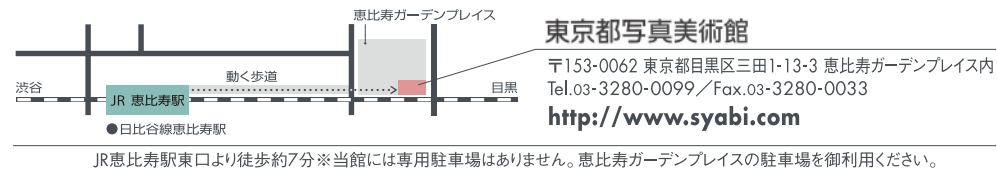
東京都写真美術館展覧会スケジュール

2008	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
8				
9	ヴィジョンズ・オブ・アメリカ 第2部 わが祖国 1918-1961 8月30日(土)～10月19日(日)	《BlueGasEyes》2004 ©Miroslaw Balka, courtesy of Gladstone Gallery, NY 液晶絵画 STILL/MOTION 8月23日(土)～10月13日(月・祝)		©EDWARD BURTYNSKY いまここにある風景 7月12日(土)～
10			第19回日本写真作家協会展 第6回JPA公募展 10月18日(土)～11月3日(月・祝)	
11	ヴィジョンズ・オブ・アメリカ 第3部 アメリカン・メガミックス 1957-1987 10月25日(土)～12月7日(日)	日本の新進作家展vol.7 「オン・ユア・ボディ」 10月18日(土)～12月7日(日)	写真新世紀東京展2008 11月8日(土)～11月30日(日)	短編映画集「男たちの詩」 9月6日(土)～
12			第9回上野彦馬賞展 12月6日(土)～14日(日)	
2009				
1	甦る中山岩太: モダニズムの光と影(仮称) 12月13日(土)～2月8日(日)	ランドスケープ 柴田敏雄展 12月13日(土)～2月8日(日)	映像をめぐる冒険vol.1 イマジネーション 視覚と知覚を 超える旅 12月20日(土)～2月15日(日)	
2	展示室メンテナンス 2月9日(月)～19日(木)			
	恵比寿映像祭 2月20日(金)～3月1日(日)			

※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

**ご利用案内**  
●休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合、その翌日)、年末年始(2008年12月29日～2009年1月1日)  
●開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで

**割引チケットの販売**  
お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。  
10月1日都民の日は、展覧会は入場無料(1階ホールは有料)



※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。  
東京都写真美術館ニュース「アイズ08」59号 ●発行日:2008年8月22日 / 企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係 ●印刷・製本:JTB印刷株式会社  
●発行:財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2008 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



2008 Vol.59

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE



志賀 理江子「千愛子」 2007年  
1980年愛知県生まれ。チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン卒業。木村伊兵衛写真賞(2008)受賞。ロンドン在住。

Topics

日本の新進作家展 vol.7

# オン・ユア・ボディ on your body; contemporary japanese photography

東京都写真美術館では日本の新進作家展vol.7『オン・ユア・ボディ』展を開催いたします。女性たちの社会的意識変化や、仮想的空間が強まる現代において、ますます現代人を捉えて放さない〈身体〉にまつわる問題。本展を企画した笠原美智子学芸員のインタビューとともに、それらの問題を浮き彫りにした作家の作品についてご紹介いたします。

『日本の新進作家展』とは、写真や映像で新しい可能性に挑戦するその創造性ある精神を支援し、将来性のある作家たちを取り上げていこうという当館の理念によって生まれた展覧会です。2002年よりシリーズ化され、今年で第7回目を迎えました。

今回開催する『オン・ユア・ボディ』は、〈身体〉がテーマです。〈身体とジェンダー〉という問題については、ここ数年で急速な変化を遂げています。特に、女性の意識変化は大きいでしょう。特徴的なこととしては、女性の社会進出と晩婚化、少子化というところに表れています。女性たちの意識がグローバル化し、欧米並みに精神の

自立が成されているのにも関わらず、社会のシステムがそれに追いついていない現状から起こっているのです。さらにインターネットが普及し、社会にヴァーチャル化されたネットワークが誕生したということ。瞬時に同じ情報がいきわたる現代社会のなかで、私たちの意識としてもヴァーチャルリアリティーが現実と同じくらいに重要になってきています。

そのようななか、〈身体〉というのは最後に残された自分自身がコントロールのきく場であり、現実との戦いの場。その実感として、女性の意識の変化のなかで身体への関心が高くなってきていると思うのです。例えば、女性

がメイクをしたり、スポーツクラブに通ったり、ダイエットに励むといった見える部分だけでなく、もっと内面的な問題を表現するための身体への執着心に焦点をあてたいと思ったのです。

今回は、そんな社会の問題や、日本の女性たちが抱えているさまざまな感覚を色濃く投影している6人の作家をご紹介します。

まず、澤田知子さんですが、彼女は同年代の様々な女性に変装したセルフポートレートを撮っている作家です。自身が証明写真のなかの400人もの別人になりきったり、高校の卒業写真や30人のお見合い写真、コギャル、キャバクラ嬢など、さまざまな同世代の女性になりきり個人化の過程における試みをしていくなかで、非常に冷めた目線で現実を見据えています。白いドレスの女性が並んだ美人コンテストをテーマにした『TIARA』(新作)もそうですが、自分自身も含めた“若い女性”が、賞味期限付きで消費されている現実を非常にシニカルな目でとらえ、そして“若い女性”を装いながらも必死にやり過ごそうとする彼女たちへの共感が根底にあります。

志賀理江子さんは、『CANARY』と『Lilly』で木村伊兵衛写真賞を受賞しています。現代のなかで巣くう間や、自分が抱えている精神的な部分を、不穏な空気やおどろおどろしさとともにビジュアライズしていく作家です。

朝海陽子さんは、自宅でくつろぎながら映画を観ている人々



高橋 ジュンコ「Tokyo Mid 2」 2006-2008年

1962年東京都生まれ。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。キヤノン写真新世紀優秀賞(1993)受賞。横浜市在住。



横溝 静「Forever (and again)」 2003年 ©芸術新潮 広瀬達郎(2003)

1966年東京都生まれ。中央大学文学部を卒業後、チェルシー美術大学で彫刻を学び、ゴールドスミス大学で修士課程修了。ロンドン在住。



澤田 知子「TIARA」 2007年

1977年兵庫県生まれ。成安造形大学卒業。在学中にキヤノン写真新世紀特別賞(2000)受賞。木村伊兵衛写真賞(2004)受賞。ニューヨーク在住。

表紙図版：塩崎 由美子「Una 2003」 2003年

の姿をカメラに収め、それぞれに『ホームアローン』や『パンピ』など、鑑賞している映画のタイトルをつけた作品を発表しています。見る、見られるということを意識しない日常のなか、映画を観る人物を被写体としているわけですが、そこには、これまで女性たちが見る立場ではなく見られる立場だったということが表現されています。

それと同じようなことが高橋ジュンコさんにもいえるのですが、彼女の場合は映像での作品です。ひとり都市のなかに超然として立つ女性、そしてその周りの光景だけがどンドン動いていくという映像に、見られるという表面上の美しさや、いかに見られるか、いかに振舞うかがその人の存在価値にまで結びついてしまうことを映し出しています。

塩崎由美子さんと横溝静さんは老いをテーマにしています。塩崎さんは、写真とホログラフィを使ったスタイルを確立し、最近では「スウェーデンの病院とアート」と題するセミナー企画をするなど、医療現場におけるアートの



塩崎 由美子「Una 2005」 2005年  
1954年埼玉県生まれ。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。1993年に文化庁芸術家在外海外派遣員として渡欧。ストックホルム在住。



朝海 陽子「ホームアローン、Tokyo」 2007年  
1974年東京都生まれ。東京造形大学からロードアイランド・スクール・オブ・デザインで学び1998年同校卒業。川崎市在住。

可能性を探る活動も行っている作家です。今回はUnaというロンドン在住の老女を被写体にドキュメンタリー風で私的な作品を作り上げました。

横溝さんは、2つの画面を用いて、かたや風景を、かたや老人が奏でるピアノの調べを延々と流し続けたビデオ・インスタレーション作品によって、人は身体の衰えをどのように受け入れていくか、限りある生命体と、自分自身の意識をどのように捉えていくかという問題を投げかけています。

今回は偶然にも女性作家ばかりが並びました。しかし、あえて女性だけを選んだわけではありません。自分自身のセクシャリティーを含め、身体性に焦点を当てた作家は圧倒的に女性が多いのです。それは、単に男性が考える女性の身体が、自分自身の理想像や幻想の対象であるというだけでなく、いま、女性たちが〈身体〉について考えざるを得ない環境におかれているからなのではないかと思えます。これまで若さが一番高い価値であった女性たちの意識変化。女性たちが自らを含め〈身体〉を探ってきたその背景に、いったいどんな事情があったのでしょうか。本展が〈あなたの身体について〉を、考えるきっかけとなれば嬉しく思います。

[インタビュー 2008年7月]

笠原 美智子 (かさはら みちこ)

東京都写真美術館事業企画課長。明治学院大学社会学部社会学科卒業、シカゴ・コロンビア大学修士課程修了。1989年より東京都写真美術館学芸員。2002年より東京都現代美術館学芸員を経て、2006年より現職。第51回ヴェネチア・ビエンナーレ(2005年)美術展日本館コミッション。

2F

2階展示室  
Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

10月18日(土) ▶ 12月7日(日)

日本の新進作家展 vol.7

オン・ユア・ボディ on your body;  
contemporary japanese photography

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

- 主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
- 助成：財団法人地域創造／財団法人アサヒビール芸術文化財団
- 協賛：株式会社ワコール／凸版印刷株式会社／富士フィルムイメージング株式会社／キヤノン株式会社
- 協力：アサヒビール株式会社／フोटोगラフファーズ・ラボラトリー／株式会社カラーサイエンスラボ／フォト・ギャラリー・インターナショナル

〈身体〉にまつわる問題は、仮想的空間が強まる現代にあって、逆にますます現代人を捉えて放さないテーマです。当館では、そうした現代写真・映像・美術の最先端を、様々な角度から検証している新進作家たちに焦点をあてた「オン・ユア・ボディ」展を開催いたします。出品アーティストは'07年度コニカミノルタフォト・プレミオ特別賞を受賞した朝海陽子、数々の賞を受賞し、'07年よりニューヨークに拠点を構え、活発な制作活動を展開する澤田知子、写真とホログラフィで独自のスタイルを確立した塩崎由美子、第33回木村伊兵衛写真賞を受賞した志賀理江子、写真作品にとどまらず映像作品にも挑む高橋ジュンコ、コンセプトチャルな作品で定評のある横溝静という面々です。彼女たちによって浮かび上がる日本の「今」を是非ともご覧ください。



横溝 静「Forever (and again)」 2003年 ©芸術新潮 広瀬達郎(2003)

≡≡≡ 連続レクチャー「女性と表現」  
定員：各回70名 会場：東京都写真美術館1階アトリエ  
時間：18:30～20:00  
第1回11月27日(木) 小勝禮子(栃木県立美術館学芸課長)  
第2回11月28日(金) 鈴木杜幾子(明治学院大学文学部芸術学科教授)  
第3回12月 5日(金) 北原恵(大阪大学大学院文学研究科准教授)  
※当日有効の展覧会チケットをお持ちの方は、どなたでもご参加いただけます。  
※当日10時より2階展示室前受付にて整理券を配布します。

≡≡≡ フロア・レクチャー  
会期中の第2・第4金曜日14:00より担当学芸員および出品アーティストによる展示解説を行います。  
10月24日(金) 澤田知子・塩崎由美子・横溝静  
11月14日(金) 高橋ジュンコ  
11月28日(金) 朝海陽子・志賀理江子  
※当日有効の展覧会チケットをお持ちの方は、どなたでもご参加いただけます。



朝海 陽子「サスベリア2, Berlin」 2006年

3F

3階展示室  
Exhibition Gallery

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレカード割引

第2部：8月30日(土) ▶ 10月19日(日)  
第3部：10月25日(土) ▶ 12月7日(日)

# ヴィジョンズ オブ アメリカ

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

( )は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都 東京都写真美術館 ○後援：アメリカ大使館 ○協賛：凸版印刷株式会社  
○協力：フォト・ギャラリー・インターナショナル/新潮社

アメリカは、写真初期から現在にいたるまで、世界の写真表現をリードした国といつてよいでしょう。ヨーロッパやアジアの作家にとっても重要な創造の「場」であり「対象」でした。

1939年にフランスで公表された写真。それは、急速に国境を越えて広まります。アメリカにおいての写真は、個人の肖像写真によってまず社会に浸透し、そしてパブリックなものとして発展していきます。アート、ドキュメンタリー、ジャーナリズム、コマーシャル、ファッション…これらはすべてアメリカという「場」を抜きにしては考えられません。アメリカ写真にはアメリカの歴史の全てが写し出されているのです。「ヴィジョンズ・オブ・アメリカ」は、19世紀のダゲレオタイプから現代に至るまでの多種多様な表現を持つ作品を、約2万4000点におよぶ当館コレクションから選りすぐり、時代によって3つのパートに分けて展示構成します。特に第2部では、当館で最も充実した1920年代～



★【第2部より】  
マイナー・ホワイト 「ふたつの小屋、ニューヨーク州ダンヴァイル」 1955年

1960年代のコレクションから初公開作品を多数展示。そこには、アメリカの建国以来の歴史が単に見て取れるだけではなく、「グローバル/ローカル」といったアメリカ文化がもつ重層性が見えてくることでしょうか。本展は、日本人にとってなじみのある作品や写真家を多数ご紹介できる機会として、写真ファンならずとも広く楽しめる展示会です。この機会に、これまで目にする事のなかった写真/写真史におけるアメリカという視点を見つめ直してみたいかがでしょうか。

## ★ 展示会公式ガイドブック

『メモリーズ・オブ・アメリカン・ドリーム』新潮社刊(とんぼの本) A5判 192頁 定価2,100円(税込)

「ヴィジョンズ・オブ・アメリカ」展 第1部～第3部の主要作品を網羅し、その時代背景や写真史的位置づけを担当学芸員がわかりやすく解説した本展の公式ガイドブック写真集です。

## ∴ 第2部関連 講演会

○アメリカ的なものを求めて  
-1930年代のアメリカン・ドキュメンツの眼差し  
日時：9月12日(金) 18:00より  
講師：日高優(群馬県立女子大学専任講師)  
会場：1階創作室 定員：50名

○アメリカのポピュラー音楽  
-ジャズ・エイジからロックンロールまで  
日時：10月12日(日) 18:30～20:00  
講師：ピーター・バラカン(プロドキャスター)  
会場：1階創作室(予定) 定員：50名

※入場無料(当日午前10時より当日有効の展示会チケットをお持ちの方へ入場整理券を配布します)

## ∴ 第2部フロアレクチャー

会期中、毎月第2・第4金曜日16:00より担当学芸員による展示解説を行います。  
※当日有効の展示会チケットをお持ちの方はどなたでもご参加いただけます。

## 第2部 わが祖国 1918-1961

Part 2 "This Land Is Your Land"

8/30(土) ▶ 10/19(日)

第一次世界大戦の終結した1918年からケネディ大統領就任の1961年までを対象とします。資本主義社会のなかで中心的地位に躍進し、文化やライフスタイルを世界中に広めていったアメリカの成長著しい時代を、写真表現の変遷とともに紹介します。ニュー・ビジョンとして、シャープで感情を排除した力強い表現などが登場し、また世界恐慌や第二次世界大戦など激動の時代が、優れた写真家たちによって記録・表現され、グラフィックを中心に発表されるなど、写真の力が最大限に発揮された軌跡をたどります。



★ ウォーカー・エヴァンス 「床屋、南部の町」 1936年



★ 三木淳 ダラス、モーター・ショー「アメリカ・フィフティーズ」より 1954年



★ 名取 洋之助 最大のホームラン・バッター、ベーブ・ルース：「アメリカ」 1937年



★ 三木淳 ルイ・アームストロング(1900-71) 東京で：「世界の巨匠」より 1953年

## 第3部 アメリカン・メガミックス 1957-1987

Part 3 "AMERICAN MEGA MIX"

10/25(土) ▶ 12/7(日)

1957年から1987年まで、写真、美術、文学、音楽など、20世紀後半の文化を横断的にとらえます。活気を放っていたアメリカを映し出す「路上」、惑星的なスケールの景観を表現する「砂漠」、ヴェトナム戦争や反戦・反人種差別デモを展開する「戦場」、人間のアイデンティティや文明の対比を喚起させる「家」、現実と虚構が混交しアメリカの姿を描き出す「メディア」という5つの象徴的な場をキーワードに構成いたします。

【第3部の展示会関連イベントは決まり次第、ホームページにて発表します。】



★ シンディ・シャーマン「アンタイトルド・フィルム・スティール#58」 1980年



★ ウィリアム・ユージン・スミス 無題：「抵抗の60年代」 1969年頃

【掲載されている作品は全てゼラチン・シルバー・プリント】 | 06 | eyes

2F

2階展示室  
Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

12月13日(土) ▶ 2月8日(日)  
12月29日(月) ~ 1月1日(木) は年末年始休館

## ランドスケープ 柴田敏雄展

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料○主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会  
○助成：芸術文化振興基金  
○協賛：ライオン／清水建設／大日本印刷／ニコン／ニコンイメージングジャパン

埼玉県 秩父市 2006年



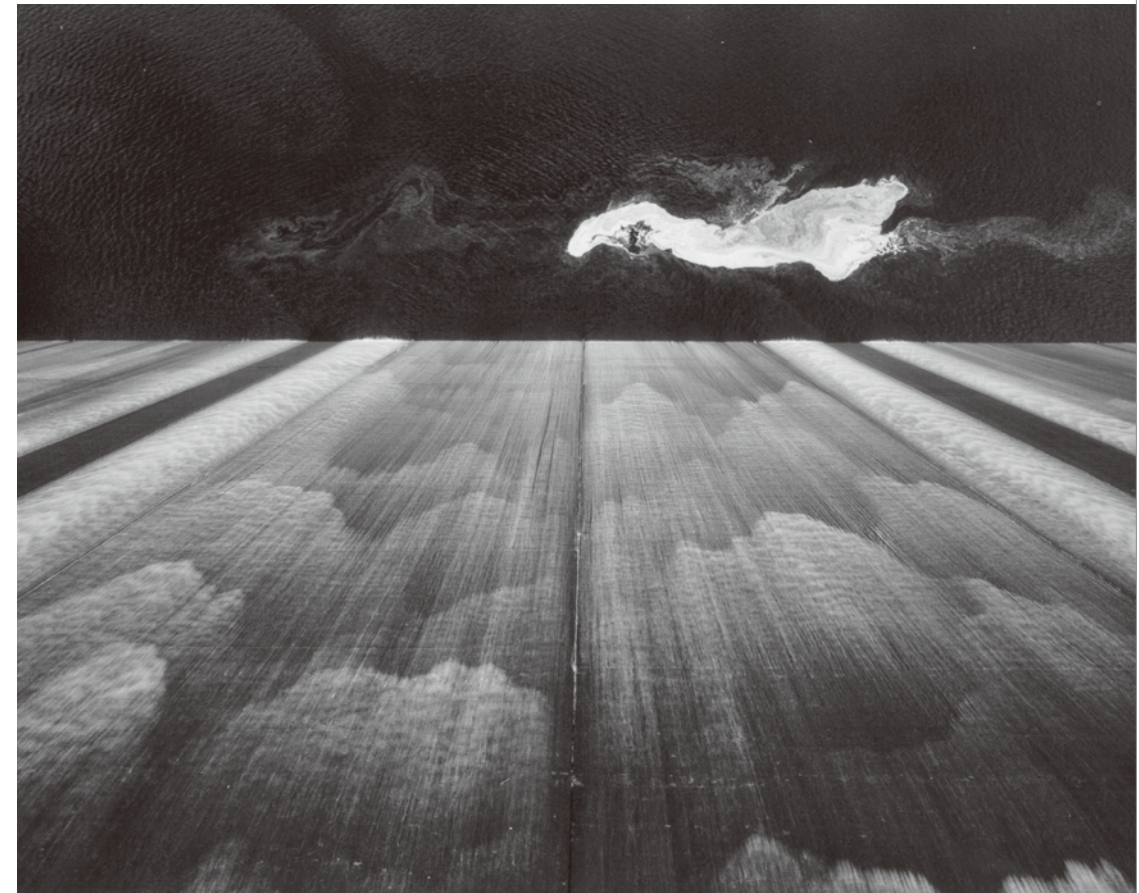
高知県 大川村 2007年

柴田敏雄は東京芸術大学・同大学院修士課程終了後、ベルギーの王立アカデミー写真学科入学。留学を機に写真を撮り始め、帰国後の1980年代後半に、ダムやコンクリートに覆われた造成地など人工的に変容された風景を独特の視点で捉えた写真で注目されました。

'92年、その年に写真界に一番影響を与えた新人に贈られる木村伊兵衛写真賞を受賞。大型の8×10カメラを使い、克明に表現された柴田の写真は、客観的に普遍的な風景を捉えているように思われます。しかしその中に日本ならではの風土や社会問題を想起させ、見るものに強い印象を与えてきました。静謐で抑制された写真から、まず自然の中に組込まれている人工物の美しさに目を奪われ、その後に自然に対する警鐘を感じ取ることができます。

'90年代後半からはアメリカ各地のダムも撮影しており、その対象は日本国内だけではなく拡がりを見せています。特に地名などがすぐに分かるようなものは一切写り込んでいないにもかかわらず、それぞれの国や地域の微細な差異が、あたかもそれぞれの土地の抱える問題として、凝視すればするほど浮き出てくるように感じられるでしょう。

国内だけではなく海外の多くの美術館にも作品が収蔵されているなど評価が高いにもかかわらず、これまで国内の美術館においてその軌跡を辿ることができる機会はありませんでした。今回は東京都写真美術館と作家が収蔵している作品を中心とし、近作のカラー作品の展示も併せて行い、現時点での柴田の活動を振り返ります。



Grand Coulee Dam, Douglas County, WA 1996年

## 柴田敏雄略歴

1949年 東京に生まれる  
1974年 東京芸術大学大学院美術研究科絵画専門課程油画専攻(修士課程)修了。  
1975年 ベルギー文部省より奨学金をうける。同ゲント市、王立アカデミー写真科入学、写真を撮る。  
1979年 帰国  
1992年 第17回木村伊兵衛写真賞受賞

## フロアレクチャー

会期中、毎月第1・第3金曜日14:00より担当学芸員による展示解説を行います。  
※当日有効の展示チケットをお持ちの方は、どなたでもご参加いただけます。

展示会関連イベントを開催予定です。  
詳細は決定次第、ホームページにて発表します。



青森県 平川市 2006年

3F

3階展示室  
Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

12月13日(土) ▶ 2月8日(日)  
12月29日(月)～1月1日(木)は年末年始休館

## 甦る中山岩太:モダニズムの光と影 (仮称)

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都 東京都写真美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会  
○特別協力：中山岩太の会/芦屋市立美術館/ラボ・テイク

中山岩太は、日本の近代的写真表現を切り開いた重要な写真家です。

1918年に東京美術学校(現東京芸大)臨時写真科を卒業後、農商務省の海外実業練習生として渡米。21年にニューヨークに写真スタジオを開業した後、パリに渡り『フェミナ』誌などで活躍しました。帰国後はヨーロッパのモダニズムの風を日本へと持ち込み、芦屋を拠点に「芦屋カメラクラブ」を結成。新興写真運動の旗手として活躍しました。本展では、作家の手によるオリジナル・プリントに加えて中山岩太の会、芦屋市立美術館が中心になって調査研究してきた「残されたガラス乾板」をもとにして、銀塩印

画紙によるプリントを展示。ニューヨーク時代から晩年に至るまでの主要な作品を中心に、全紙大のプリント約50点を制作するとともに、制作過程を明らかにするガラス乾板などの展示も行ないます。『光画』など当時の写真雑誌、関係資料を合わせて全体で約130点の作品と資料を展示いたします。

新たに制作されたプリントは、中山岩太の華麗な写真表現をダイナミックに再現するだけではなく、銀塩写真の危機が叫ばれている今日にあって、歴史的遺産ともいべき写真原板をいかに後世に伝えていくかという問いかけに対する一つの答えを示しているのではないのでしょうか。



上海からきた女 1936年 セラチン・シルバー・プリント



蝶(一) 1941年 セラチン・シルバー・プリント

B1F

地下1階展示室  
Exhibition Gallery

11月8日(土) ▶ 11月30日(日)

## 写真新世紀東京展2008

New Cosmos of Photography Tokyo Exhibition 2008

□ 入場無料

○主催：キャンノン株式会社 ○共催：東京都写真美術館

キャンノンの文化支援活動の一環として行っている「写真新世紀」は、新人写真家の発掘・育成・支援を目的に今年で18年目を迎えました。これまでに国内外で活躍する多くの写真家を輩出し、新人写真家の登竜門としても認知度の高い公募展です。今年の公募には、過去最高の1,517名の応募がありました。本展では、応募作品の中から選ばれた優秀賞・佳作受賞作品とともに、昨年の準グランプリ3名の新作をご紹介します。フレッシュで力強い作品の数々をお楽しみください。

◎お問い合わせ≫キャンノン(株) 渉外本部 社会文化支援部  
文化支援推進室 写真新世紀事務局 03-5482-3904



写真新世紀東京展2007 展示風景より

B1F

地下1階展示室  
Exhibition Gallery

10月18日(土) ▶ 11月3日(月・祝)

## 第19回日本写真作家協会展 第6回JPA公募展

□ 入場無料

○主催：日本写真作家協会 ○協力：東京都写真美術館

今年で19回目となるJPA展は、日本写真作家協会の会員による200点の作品が展覧されます。また第6回目となる公募展には全国の応募作品から選ばれた入賞・入選作品162点を展示いたします。

◎お問い合わせ≫日本写真作家協会 03-3535-6251

B1F

地下1階展示室  
Exhibition Gallery

12月6日(土) ▶ 12月14日(日)

## 第9回上野彦馬賞展 九州産業大学フォトコンテスト受賞作品展

□ 入場無料

○主催：毎日新聞社/九州産業大学

21世紀に羽ばたく若い写真家の発掘と育成を目的とし、わが国の“写真の祖”として尊敬されている「上野彦馬」の名を冠した「上野彦馬賞—九州産業大学フォトコンテスト」。9月16日まで募集される作品から、入賞した作品をご紹介します。展覧会です。

◎お問い合わせ≫毎日新聞福岡本部事業部 092-781-3636

B1F 地下1階展示室  
Exhibition Gallery

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレカード割引

12月20日(土)▶2月15日(日)  
12月29日(月)~1月1日(木)は年末年始休館

映像をめぐる冒険vol.1 **イマジネーション 視覚と知覚を超える旅**  
Quest for Vision vol.1-IMAGINATION: Vision, Perception and Beyond

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

( )は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都 東京都写真美術館

○助成：文化庁[平成20年度文化庁メディア芸術推進拠点形成事業(若手クリエイター創作支援)]  
財団法人 花王芸術・科学財団



牧野 貴 《The Seasons》 2008年(ビデオ作品)より [参考図版]



近森 基++久納 鏡子 《Tool's Life~道具の隠れた正体》 2001年



《影絵カード》 制作年不詳、19世紀

今年度から新たにスタートするシリーズ企画「映像をめぐる冒険」では、映像コレクションの指針となる5つのテーマを毎年ひとつずつ再考していきます。映像前史ともいえるさまざまな試みや工夫から、最新の技術を生かした現代の表現までを、収蔵作品を中心に新たな視点から紹介します。第1回となる本年は、「イマジネーション 視覚と知覚を超える旅」と題し、人が抱くイマジネーションを視覚的に表現する技法について3部構成で展示します。

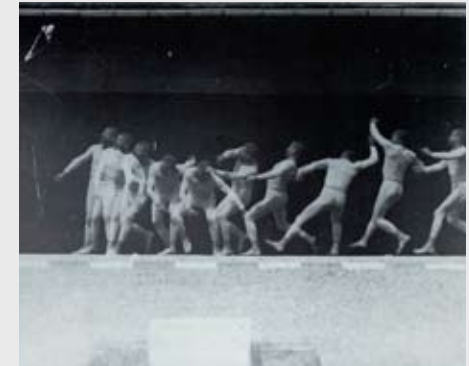
第1部「視覚をめぐるメディアの冒険」では、影絵や幻燈、アナモルフォーズなどといった幻影装置の変遷と目の錯覚を利用したトリックの探究をたどり、第2部「知覚の補助装置」では、カメラ・オブスクラ、カメラ・ルシーダや連続写真などメディアの力を借りた知覚の有り様を探ります。そして、第3部「視覚と知覚を超えて」では、見えている、あるいは判っ



宇川 直宏 《Fresh Fruits, Vegetables & ANIMA MxKxM》 2003年 ©Disney



《ブラクシノスコブ劇場(テアトル)》 1879年



エティエンヌ=ジュール・マレ 《無題(クロノフォトグラフィ)》 1890年頃



渡辺 水季 《In-between Gaze》2008年(インスタレーション) 撮影:山崎 潤也



狩野 志歩 《アトリエ》2006年(ビデオ作品)より

ているつもりになっているもの乗り越えたときに、はじめて私たちの前に立ち現れてくる映像の可能性について探ります。映像前史をたどる数々の名品に加え、狩野志歩、牧野貴による新作インスタレーションのほか、宇川直宏、近森基++久納鏡子、渡辺水季ら、現代の作家たちの作品を織り交ぜて構成します。

視覚メディアがめざましく発達しても、それを豊かな体験に結び付けるのはそれぞれのイマジネーションです。イメージが想像力を刺激し、想像力がまた新たなイメージを生み出していく。その連鎖の中に介在するメディアや表現の工夫をたどりながら、視ること、知覚すること、そしてその果てへと続く冒険の旅へみなさまを誘います。

≡≡ フロアレクチャー

会期中に出品作家や担当学芸員による展示解説を行います。(日程等詳細は決定次第ホームページにて発表します。)

※当日有効の展覧会チケットをお持ちの方はどなたでもご参加いただけます。

第1回 恵比寿映像祭 開催!

入場無料

※一部有料イベントと上映あり

2009年2月20日 ▶▶ 3月1日 (10日間:会期中無休)

会場:東京都写真美術館(全フロア)

2009年2月、恵比寿で新しい映像の祭典がはじまります。「オルタナティブ・ヴィジョンズ~映像体験の新次元」をテーマに東京都写真美術館を上から下までまるごと使い、展示、上映、ライブ・イベント、トーク・セッションなど多彩なプログラムを10日間にわたって展開します。どうぞお楽しみに!

1F

1階ホール  
Hall Cinema Information

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

Film Series  
Vol.41

### いまここにある風景

これは“地球の壊されたか”か、それとも  
“人類繁栄の足あと”か？

産業発展によって巨大な影響を与えられた中国。カナダ人写真家のエドワード・パーティンスキーが、驚愕の風景を写真におさめる姿を記録したドキュメンタリー。地球という惑星の未来について考えさせ、いま、私たちがどんな世界に生きているのか・・・そんな問いを投げかけられる一作です。

ムヴィオラ 03-5366-1545



○上映スケジュール：7月12日(土)～  
○上映時間：11:00/13:00/15:00/17:00/19:00  
○料 金：一般1,800円/学生1,500円  
中学生以下・シニア(60歳以上)1,000円

Film Series  
Vol.42

SABURO TOMOTO & HIROYUKI NAKANO PRESENTS

### 短編映画集「男たちの詩」

中野裕之監督がプロデュースする短編映画シリーズ。  
圧巻の映像美。

“人を殺すのは簡単だけど、アイロンをかけるのはむずかしいんだ”  
カンヌ映画祭ヤング批評家賞受賞作品の「アイロン」を初め  
「スバゲッティ ナポリタン」「観覧車」「富士とドーナツ」「灯台」  
の5作品。日本映画では初めての試みで、全てをつないだ約90分  
の劇場用映画。9月6日初日、日本映画界の歴史が変わります。

東京都写真美術館 03-3280-0099



○上映スケジュール：9月6日(土)～  
○上映時間：写真美術館ホームページwww.syabi.comでご確認ください  
○料 金：1本(5篇)1,000円均一

### museum shop

NADIFF  
X IO

ミュージアムショップ  
「ナディッフ バイテン」

◎お問い合わせ：「ナディッフ バイテン」  
営業時間 10:00-18:00 直通 03-3280-3279

### stationery



ナディッフの新店舗が恵比寿  
にオープンしたのを記念して、  
これまで人気だった、きらりと  
光る表紙のオリジナルノートに  
新色が加わりました。また、カラ  
フルなボールペンも新登場です！  
ナディッフノート  
ボールペン(各色)各480円(税込)  
ボールペン  
インクはすべて黒・5色各126円(税込)

www.syabi.com/shop/shop.html

### cafe

chambre  
claire

カフェ  
「シャンブル クレール  
～明るい部屋～」

◎お問い合わせ：カフェ「シャンブル クレール」  
営業時間 【1階】10:00-20:00(日曜日は18:00まで) 【2階】10:00-18:00  
直通 03-5798-2218



cake  
濃厚なチーズの味わいに、ほど  
良い酸味が清涼感を誘います。  
是非ご賞味ください。

ニューヨークチーズケーキ  
550円(税込)

www.syabi.com/cafe/cafe.html

### 維持会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。  
※詳しくはホームページをご覧ください。http://www.syabi.com/member/member.html

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

- |   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| <p>——— 特別支援会員 ———</p> <p>キヤノン株式会社<br/>株式会社資生堂</p> <p>——— 特別維持会員 ———</p> <p>株式会社アイデム<br/>株式会社キタムラ<br/>大日本印刷株式会社<br/>東京電力株式会社<br/>凸版印刷株式会社<br/>株式会社ニコン<br/>富士フィルム株式会社<br/>株式会社リコー</p> <p>維持会員</p> <p>株式会社I&amp;S BBDO<br/>株式会社アサツーディ・ケイ<br/>旭化成株式会社<br/>朝日新聞社<br/>朝日生命保険相互会社<br/>アサヒビール株式会社<br/>朝日放送株式会社<br/>株式会社アシネット婦人画報社<br/>アップルジャパン株式会社<br/>株式会社アートよみうり<br/>株式会社アマナ<br/>イー・ギランティ株式会社<br/>株式会社岩波書店<br/>エスエス製薬株式会社<br/>株式会社NHKアート<br/>株式会社NHKエデュケーショナル<br/>株式会社NHKエンタープライズ<br/>株式会社NHKプロモーション<br/>株式会社NTTデータ<br/>株式会社NTTドコモ<br/>NTT都市開発株式会社<br/>株式会社エフエム東京<br/>エフエム販売株式会社<br/>LIVELIP株式会社<br/>エルメスジャパン株式会社<br/>株式会社大塚商会<br/>株式会社大林組<br/>オムロン株式会社<br/>オリックス株式会社<br/>オリンパスイメージング株式会社<br/>株式会社オインワード櫻山<br/>科研製薬株式会社<br/>カンオ計算機株式会社<br/>鹿島建設株式会社<br/>株式会社角川書店<br/>カトレック株式会社<br/>カルピス株式会社<br/>キョーマン株式会社<br/>株式会社紀伊屋書店</p> | <p>キハラ株式会社<br/>キヤノンマーケティングジャパン株式会社<br/>株式会社キューンコミュニケーションズ<br/>共同印刷株式会社<br/>社団法人共同通信社<br/>協和醗酵工業株式会社<br/>キリンホールディングス株式会社<br/>株式会社講談社<br/>株式会社光文社<br/>株式会社国書刊行会<br/>株式会社コスモインテナーショナル<br/>株式会社コーセー<br/>コダック株式会社<br/>コニカミノルタホールディングス株式会社<br/>株式会社ザ・アール<br/>サッポロホールディングス株式会社<br/>産経新聞社<br/>サントリー株式会社<br/>株式会社サンローズイ<br/>株式会社ジェイアール東日本企画<br/>ジェイティビー印刷株式会社<br/>株式会社シグマ<br/>株式会社実業之日本社<br/>清水建設株式会社<br/>株式会社写真弘社<br/>シャネル株式会社<br/>株式会社集英社<br/>株式会社主婦と生活社<br/>株式会社主婦の友社<br/>株式会社小学館<br/>松竹株式会社<br/>信越化学工業株式会社<br/>株式会社新潮社<br/>株式会社スタジオアリス<br/>株式会社スタジオジブリ<br/>住友化学株式会社<br/>株式会社生活の友社<br/>セイコーホールディングス株式会社<br/>株式会社青春出版社<br/>積水ハウス株式会社<br/>株式会社絶対空間<br/>セントラル警備保障株式会社<br/>日本空輸株式会社<br/>ソニー株式会社<br/>第一建築サービス株式会社<br/>第一三共株式会社<br/>第一法規株式会社<br/>ダイキン工業株式会社<br/>大成建設株式会社<br/>株式会社竹中工務店<br/>株式会社タムロン<br/>株式会社丹青社<br/>株式会社中央公論新社</p> | <p>中外製薬株式会社<br/>株式会社ティー・ビー・オー<br/>株式会社デー・オー・ダブリュー<br/>株式会社テレビ朝日<br/>株式会社テレビ東京<br/>電源開発株式会社<br/>株式会社電通<br/>東亜建設工業株式会社<br/>東京ガス株式会社<br/>東京急行電鉄株式会社<br/>株式会社ファンケル<br/>東京工芸大学<br/>東京新聞・中日新聞社<br/>株式会社東星ステアデオ<br/>東京造形大学<br/>東京総合写真専門学校<br/>東京テアトル株式会社<br/>株式会社都競馬株式会社<br/>株式会社東京ドーム<br/>株式会社東京美術倶楽部<br/>株式会社東京放送<br/>東京メトロポリタンテレビジョン株式会社<br/>株式会社東芝<br/>東宝株式会社<br/>株式会社東北新社<br/>株式会社徳間書店<br/>図書印刷株式会社<br/>戸田建設株式会社<br/>トヨタ自動車株式会社<br/>日外アソシエーツ株式会社<br/>日油株式会社<br/>日産自動車株式会社<br/>株式会社日本カメラ社<br/>日本経済新聞社<br/>日本興亜損害保険株式会社<br/>株式会社日本広告社<br/>社団法人日本広告写真家協会<br/>日本写真印刷株式会社<br/>社団法人日本写真家協会<br/>社団法人日本写真協会<br/>日本写真芸術専門学校<br/>日本写真作家協会<br/>社団法人日本写真文化協会<br/>日本大学芸術学部<br/>ソニー株式会社<br/>日本テレビ放送網株式会社<br/>日本ハム株式会社<br/>日本ビューレット・バックカード株式会社<br/>株式会社ニッポン放送<br/>日本レコードマネジメント株式会社<br/>日本ロレックス株式会社<br/>野崎印刷紙業株式会社<br/>株式会社博報堂<br/>株式会社林原生物化学研究所</p> | <p>びあ株式会社<br/>北海道写真の町東川町<br/>東日本旅客鉄道株式会社<br/>写真印刷株式会社<br/>株式会社美術出版社<br/>株式会社日立製作所<br/>株式会社日立物流<br/>株式会社ビックカメラ<br/>ヒノキ新薬株式会社<br/>株式会社ファーストリテイリング<br/>株式会社ファンケル<br/>富国生命保険相互会社<br/>富士重工株式会社(スバル)<br/>富士ゼロックス株式会社<br/>株式会社フジテレビジョン<br/>株式会社扶桑社<br/>株式会社ブラザークリエイト<br/>株式会社プリヂェストン<br/>株式会社プリンスホテル<br/>株式会社フレームマン<br/>株式会社文藝春秋<br/>株式会社ベネッセコーポレーション<br/>株式会社ホテルオークラ<br/>HOYA株式会社PENTAX(イメージング)システム事業部<br/>株式会社堀内カラー<br/>本田技研工業株式会社<br/>毎日新聞社<br/>株式会社マガジンハウス<br/>松下電器産業株式会社<br/>マミヤ・デジタル・イメージング株式会社<br/>丸善株式会社<br/>三井倉庫株式会社<br/>三井不動産株式会社<br/>株式会社三越<br/>三菱地所株式会社<br/>武蔵大学<br/>森ビル株式会社<br/>メルガン・スタンレー証券株式会社<br/>株式会社ヤナセ<br/>ヤマトビジネス株式会社<br/>ユサコ株式会社<br/>ユニリーバ・ジャパン株式会社<br/>横河電機株式会社<br/>株式会社吉野工業所<br/>株式会社トクワカメラ<br/>読売新聞社<br/>ライオン株式会社<br/>ライカカメラジャパン株式会社<br/>リシュモン ジャパン株式会社 モンブラン<br/>株式会社ワコール</p> |
|---|--|--|---|

### 来館者が 400万人を突破!

東京都写真美術館は1995年(平成7年)  
1月21日の開館以来、本年8月で400万人  
を超えるお客さまにご来館いただくこととな  
りました。写真・映像文化への関心がますます  
高まるなか、より親しまれ、満足していた  
だけ美術館をめざして、さらなる努力をして  
まいります。これからも写真美術館の活動  
にご注目いただきますようお願いいたします。

### ○友の会 東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。

- ・受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
- ・会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
- ※詳細は当美術館までお問い合わせください。  
TEL:03-3280-0099

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員(同伴者1名まで)	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ※会期中はいつでもご覧いただけます※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
共催展・企画展	割引 ※御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ※一部商品は除きます
カフェ	ブレンドコーヒー、ダーズリン紅茶を200円引き ※詳細はお尋ねください
その他	○写美ニュース「eyes」送付 ○1階ホール(実験劇場)の割引 ○ロコス渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など